

休眠預金等活用事業（2025年度第2回）
「家庭や学校生活に不調和が生じている子どもやユースの生きづらさを解消する
社会的処方モデル構築事業」 実行団体採択一覧

公益財団法人 たかまつ讃岐てらす財団
2026/08/18作成

公益財団法人たかまつ讃岐てらす財団が実施する、休眠預金等活用にに基づく「家庭や学校生活に不調和が生じている子どもやユースの生きづらさを解消する社会的処方モデル構築事業」について、選定した実行団体の団体名、所在地、事業名、事業概要、選定過程、選定理由、助成額の総額及び内訳並びにその算定根拠を公表します。

【選定過程】				
■公募の実施概要				
公募期間：2026年4月28日（公募要領公開）～6月29日 公募説明会：5月8日　／　申請書作成サポート講座：6月6日　／　事前相談：要領公開～6月22日 対象：香川県高松市および高松市周辺地域で活動する非営利団体　／　採択予定：最大3団体（助成総額54,000,000円） 申請団体数：7団体（団体名・所在地・事業名・事業概要を7月10日に当財団ホームページで公表）				
■選考委員会による審査の実施				
選考委員：5名（外部有識者を含む）　／　一次選考会（書類審査）：7月13日　／　二次選考会（ヒアリング）：7月23日 申請7団体の書類審査及びヒアリングを踏まえた協議により3団体を選定しました。審査は公募要領に定める選定基準に基づき、申請団体との利益相反がないことを確認したうえで実施し、選定結果は理事会の承認を経て決定しています。				

（採択3団体・順不同）

No	団体名	事業名	助成総額	所在地
1	発達にじいろ広場自由っこ	生きづらさを抱える子どもたちが「感覚の苦手対策と自分の強み」を見つけ、安心して好きなことに打ち込む笑顔が輝く高松市へ　感覚特性対応と居場所提供事業	26,690,624円	香川県高松市
	事業概要			
	この事業は、不登校をはじめとする家庭や学校との不調和を抱える子どもたちが、自分の「苦手と好き」を知り、自分に合った学び方や過ごし方を主体的に選んで生き生きと過ごせるように支援するものである。学校との不調和の背景には、感覚過敏（音や光などの刺激を強く受け取ってしまう）や、体や脳の状態によって起こる感覚探求（じっと座れずうろろしたり、椅子を揺らすなどの行為）などの感覚特性と、学校環境とのミスマッチが存在する。しかしその知識がないために、理由がわからず苦しんでいたり、苦しみを周りに理解してもらえない子どもや、子どもが抱える不調和への焦りや子どもの将来への不安を抱える保護者が存在し、学校側も知識不足により環境設定に踏み切れない現状がある。そこで子ども本人や保護者、学校に向けて感覚特性についての周知や対策グッズ体験会などを行い、自己理解や環境設定の大切さを知ってもらうとともに、子どもの最も身近な環境となる保護者と学校や園を支援するしくみを構築する。			
	また、学校という枠の中で人との関わりをもつのが難しい子どもたちが、特性を理解され、安心して自分の興味のあることに打ち込めるような居場所を提供する。子どもたちが仲間を見つけ周りから受け入れられる経験をするこゝと、将来へのイメージのきっかけとなるような大人と出会い、多様な体験を通して自分の好きを見つけ、強みを伸ばし社会に繋がることを目的とする。			
	助成額の内訳			
	直接事業費　23,233,623円　／　管理的経費　2,557,001円　／　評価関連経費　900,000円			
2	特定非営利活動法人未来ISSEY	子ども応援地域エコシステム構築事業 ～病気をきっかけとした社会課題を未然に防ぐ社会的処方モデル～	18,900,274円	香川県丸亀市
	事業概要			
	本事業は、今困っている難病・長期入院の子どもと家族（3年間で120世帯・延べ500名を対象）を「応援アクション」で直接救いながら、連鎖する不登校・家庭崩壊・経済的困窮を未然に防ぐ「社会的処方ネットワーク」を香川県内に構築する事業である。新規取り組みの高松サテライトと応援BOOKが、支援の届かない空白を埋める。 ①高松サテライト機能の整備・月1回のワークショップに加え、週1回居場所を持つ：既存の高松市小児慢性特定疾病等自立支援事業を発展させ、高松市内で月1回の対面型サテライトを定期開催する。わははネット等の地域拠点を活用し「相談できる・経験者につながる・一人でないと思える」入口を整備し、地域資源と家族をつなぐリンクワーカーを配置する。その他、週1回高松市内に居場所を持つ。 ②応援BOOK（地域共通支援ツール）の作成・配布：病院・学校・行政・保護者・企業が共通して使える地域の支援ツール。病気発覚時から必要な情報を1冊に集約し支援者と当事者をつなぐ。企業PR枠で収益性を持たせ、助成終了後も当法人が自律的に更新できる出口戦略の中心に位置づける。 ③ピアサポート・相談支援の充実：経験者リンクワーカーが必要な社会資源へつなぐ。丸亀みらいCUBEと高松サテライトの2拠点体制で広域対応する。 ④地域エコシステムの構築：医療・教育・行政・企業・NPOが連携するネットワークをマッピングし、社会的処方モデルを香川から全国へ発信する。			
	助成額の内訳			
	直接事業費　17,743,904円　／　管理的経費　256,370円　／　評価関連経費　900,000円			
	選定理由と期待する内容			
	病気や長期入院の経験が、不登校や孤立などの困難につながることもあるという課題に対し、それが生じる前に防ごうとする予防の視点が評価されました。丸亀の拠点で積み重ねてきた相談支援の実績と、同じ経験のある人や専門家が寄り添う体制を高松へ広げる計画が評価されました。今後は、高松に新たに設ける居場所を軸に、相談支援や地域で共有できる情報の仕組み、関係機関とのつながりづくりを通じて、困りごとが大きくなる前の段階から支援が届き、その広がりが病気を経験した子どもと家族にとどまらないことを期待します。			
3	特定非営利活動法人親の育ちサポートかがわ	ユニバスつながるプロジェクト — 孤立する子ども・ユースを地域で支える伴走支援事業 —	18,840,150円	香川県高松市
	事業概要			
	本事業では、不登校やひきこもり等により生きづらさを抱える子ども・ユースとその家族を対象に、居場所づくり、訪問支援、保護者支援を組み合わせた地域伴走支援モデルを構築する。大学生や地域住民によるユニバスサポーターと支援を調整するコーディネーターを中心に、子どもの孤立を防ぎ、人や地域とのつながりを取り戻せるよう支援する。具体的には、①子どもが安心して過ごせる居場所づくり、②家庭訪問や外出支援を通じて居場所や地域活動等につなぐサポーターによる伴走支援、③保護者相談や親の会による保護者支援を実施する。子どもが安心できる環境の中で、自分のペースで次の一歩を踏み出せることを目指す。 1年目は、サポーターが安全に家庭訪問や外出支援を行える体制を整備するとともに、コーディネーターが保護者や子どもとの関係構築を進め、既存の居場所の充実を図る。2年目は、高松西地区に新たな居場所を開設し、サポーターによる家庭訪問や外出支援を試行的に実施する。また、地域資源や進路情報をまとめた情報冊子を作成し、子ども・ユースも取材や編集、イラスト制作等を通じて参加することで、社会とのつながりや役割を持つ機会を創出する。3年目は、高松南地区にも居場所を開設し、支援対象者やサポーター数を拡大する。保護者支援、居場所、訪問支援を一体的に実施することで、地域全体で子ども・ユースと家族を支える持続可能な支援モデルの構築を目指す。			
	助成額の内訳			
	直接事業費　15,452,150円　／　管理的経費　2,511,000円　／　評価関連経費　877,000円			
	選定理由と期待する内容			
	高松市内でも身近に通える居場所が少ない西部・南部に新たな居場所を開き、家庭訪問や外出への同行によって家から出づらい子どもにも支援を届ける計画が評価されました。これまでの親の会活動で培った保護者支援と、地域の支援団体・専門家との幅広い連携基盤が評価されました。今後は、地域の大人が支え手として関わる仕組みを育て、子ども・ユースが安心して地域とつながり続けられることを期待します。			

※助成額は実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。